

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校盛岡校
設置者名	学校法人大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養 専門課程	スポーツ学科	夜・通信	29 単位	2 年制 : 7 単位	
	公務員 2 年制学科	夜・通信	13 単位	2 年制 : 7 単位	
	公務員 1 年制学科	夜・通信	12 単位	1 年制 : 4 単位	
商業実務 専門課程	総合ビジネス学科 2 年制	夜・通信	32 単位	2 年制 : 7 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

下記ホームページにて公表している https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校盛岡校
設置者名	学校法人大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2025.5.29～4年 以内に終了する 会計年度のうち 最終のものに関 する定時評議員 会の終結の時ま で	法人運営における 法務的な検証、管 理
非常勤	Web デザイン・システム 開発・印刷関連企業 代表取締役	2025.5.29～4年 以内に終了する 会計年度のうち 最終のものに関 する定時評議員 会の終結の時ま で	学生募集、教材開 発への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原ビジネス公務員専門学校盛岡校
設置者名	学校法人大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1. 作成について 授業計画書(シラバス)は学科会議を行い、過年度の学習成果を分析し、授業科目の設定・講義内容について検討を行い、各科目(各学科)の担当教員が作成を行っている。なお、検討にあたっては、専門分野に関する企業、団体等との連携により設置している教育課程編成委員会の提言も各授業科目の内容に反映させている。 授業計画書(シラバス)の作成、記載項目は学校全体で定めたガイドラインに沿って行っている。</p> <p>2. 作成・公表の時期について 年間計画に基づき、教育課程編成委員会での意見収集、反映させたいうえで、前年度中に作成を行い、新年度開始にあわせてHPを通じて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>下記ホームページで公表している https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学則に規定する履修、学業成績、進級および卒業要件に基づき各学生の学修成果に対して厳格な評価を実施している。なお、成績評価に関しては、あらかじめ学生に示す、学生便覧及び授業計画書(シラバス)に記載された方法に基づき、各授業科目の評価を客観的に行うことにより、履修の認定を行っている。</p> <p>◆学則より抜粋◆ (授業) 第16条</p> <p>3. 授業科目の履修において、第22条の規定を満たさない者には補講授業を行うことがある。なお、補講授業は授業科目の未出席授業を行い、授業科目の出席時間とすることができる。また、別表で定める学年別授業科目の定めに関係なく、卒業までの間に行うこととする。</p> <p>(試験等) 第18条 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試</p>	

験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験又は再試験等を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対して行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して行う。

2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。

(学業成績)

第19条 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。

2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。

(単位の授与)

第20条 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀、優、良、可を取得した学生には所定の単位を与える。

2. 1年間に履修できる授業科目の上限は48単位とする。

(卒業の認定)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

(1) 総合ビジネス学科2年制 62単位

(2) スポーツ学科 62単位

(3) 公務員2年制学科 62単位

(4) 公務員1年制学科 31単位

2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。

(進級の認定)

第24条 進級の認定は、各学年において定める単位の取得状況及び出席状況等学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査する。

◆学生便覧より抜粋◆

1. 進級について

各課程・学科において、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の進級に必要な授業科目および単位数を修得したと認められた場合、進級できる。

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

3. 学業成績について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。

なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者宛に通知する。

4. 授業について

全ての授業科目において、出席・欠席・遅刻・早退を記録する。各課程・学科の授業科目や授業時間、授業科目の単位数は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学業の達成度を客観的に評価するための指標としてGPA (Grade Point Average) を採用し、本校の成績評価に使用している。本校ではGPAを基準に成績の分布状況の把握に努めているほか、学生個人の就職や大学編入学への推薦等の際にも客観的指標としてGPAを活用している。この客観的な成績評価指標についてはHPで公開するほか、学生便覧にも記載して周知を図っている。

◆学生便覧より抜粋◆

3. 学業成績について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。

なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者等宛に通知する。

- (1) 学業成績の判定は、「秀・優・良・可・不可」の5種で判定し、「秀・優・良・可」を合格(認定)とし「不可」は不合格(不認定)とする。また、授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。
- (2) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、「秀・優・良・可」を取得した学生には所定の単位を与える。
- (3) 学校が必要と認めた場合に限り、追試験または再試験などを実施する場合がある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。
- (4) 試験内容や判定基準は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

下記ホームページにて公表している
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校は、学則に教育目的として「簿記会計・税務会計・医療事務並びにこれらビジネスに関する専門教育、社会体育指導者・健康管理指導者・トレーナー及び国家地方公務員行政職・警察官・消防官をはじめとする公務員養成に関する専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げて教育を行っている。

この目的を実現するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、その要件を満たした学生に卒業を認定致します。

1. カリキュラムポリシー

次に掲げるカリキュラムポリシーに基づき、社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 多様なメディアを活用した講義・演習・実習により、専門的な知識やスキルを身につけるための教育課程を編成する
- (2) 教育課程の編成においては、基礎力から応用・発展する力へ、段階的に成長できるように履修科目を配置する
- (3) 専門的な知識やスキルだけでなく、マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を育む

上記に基づき、ディプロマポリシーとして卒業時点で身につけている能力を以下のとおり定めHPに公開しています。

2. ディプロマポリシー

次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

- (1) 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
- (2) 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
- (3) マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

また、卒業要件については、学則に規定するとともに、学生便覧において学生に周知している。

◆学則より抜粋◆

(卒業の認定)

第 22 条 卒業の認定は、第 5 条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

- (1) 総合ビジネス学科 2 年制 6 2 単位
- (2) スポーツ学科 6 2 単位
- (3) 公務員 2 年制学科 6 2 単位
- (4) 公務員 1 年制学科 3 1 単位

◆学生便覧より抜粋◆

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

- (1) 卒業を認められる者のうち、文部科学大臣が認める所定の学科（1 年制コースを除く）を修了した者は、「専門士」の称号を付与する。
- (2) それぞれの課程・学科に定められた授業科目および単位数などで一定の基準を満たしていない者は、追試験などを受けなければ卒業できない。
- (3) 卒業に関する要件は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

下記ホームページで公表している
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原ビジネス公務員専門学校盛岡校
設置者名	学校法人大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	ホームページで公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/business_report.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページで公表 https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/audit_report.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

■商業実務専門課程 総合ビジネス学科 2年制

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	総合ビジネス学科 2年制	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62 単位時間/単位	163 単位時間 /単位	153 単位時間 /単位	10 単位時間 /単位	2 単位時間 /単位	2 単位時間 /単位
			328 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		95人	0人	6人	1人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）は学科会議を行い、過年度の学習成果を分析し、授業科目の設定・講義内容について検討を行い、各科目（各学科）の担当教員が作成を行っている。なお、検討にあたっては、専門分野に関する企業、団体等との連携により設置している教育課程編成委員会の提言を各授業科目の内容に反映させている。授業計画書（シラバス）の作成、記載項目は学校全体で定めたガイドラインに沿って行っている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業の達成度を客観的に評価するための指標として GPA（Grade Point Average）を採用し、本校の成績評価に使用している。本校では GPA を基準に成績の分布状況の把握に努めているほか、学生個人の就職や大学編入学への推薦等の際にも客観的指標として GPA を活用している。この客観的な成績評価指標については HP で公開するほか、学生便覧にも記載して周知を図っている。</p> <p>◆学生便覧より抜粋◆</p> <p>3. 学業成績について</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。</p> <p>なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者等宛に通知する。</p> <p>(1) 学業成績の判定は、「秀・優・良・可・不可」の5種で判定し、「秀・優・良・可」を合格（認定）とし「不可」は不合格（不認定）とする。また、授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP（Grade-Point）を与える。</p> <p>(2) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、「秀・優・良・可」を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(3) 学校が必要と認めた場合に限り、追試験または再試験などを実施する場合がある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p>

(4) 試験内容や判定基準は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。

卒業・進級の認定基準

本校は、学則に教育目的として「簿記会計・税務会計・医療事務並びにこれらビジネスに関する専門教育、社会体育指導者・健康管理指導者・トレーナー及び国家地方公務員行政職・警察官・消防官をはじめとする公務員養成に関する専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げて教育を行っている。

この目的を実現するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、その要件を満たした学生に卒業を認定致します。

1. カリキュラムポリシー

次に掲げるカリキュラムポリシーに基づき、社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 多様なメディアを活用した講義・演習・実習により、専門的な知識やスキルを身につけるための教育課程を編成する
- (2) 教育課程の編成においては、基礎力から応用・発展する力へ、段階的に成長できるように履修科目を配置する
- (3) 専門的な知識やスキルだけでなく、マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を育む

上記に基づき、ディプロマポリシーとして卒業時点で身につけている能力を以下のとおり定めHPに公開しています。

2. ディプロマポリシー

次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

- (1) 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
- (2) 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
- (3) マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

また、卒業要件については、学則に規定するとともに、学生便覧において学生に周知している。

◆学則より抜粋◆

(卒業の認定)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

- (1) 総合ビジネス学科2年制 62単位

◆学生便覧より抜粋◆

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

- (1) 卒業を認められる者のうち、文部科学大臣が認める所定の学科を修了した者は、

<p>「専門士」の称号を付与する。</p> <p>(2) それぞれの課程・学科に定められた授業科目および単位数などで一定の基準を満たしていない者は、追試験などを受けなければ卒業できない。</p> <p>(3) 卒業に関する要件は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>個別相談・指導等に対応する他、学生の事情に応じ、家庭への電話、ポータルサイトでの連絡、保護者面談、保護者との連携等を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
73人 (100%)	2人 (2.7%)	70人 (95.9%)	1人 (1.4%)
(主な就職、業界等) NTT東日本、コナミグループ、ザ・パック、東芝、三菱製紙、北日本銀行、薬王堂、ワイズマン、慈恵大学、日本医科大学、仙台徳洲会病院、岩手県予防医学協会			
(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、校内でのセミナー・ガイダンスの実施 担当による求人紹介、個別就職指導、面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 税理士試験科目、日商簿記検定、MOS、ファイナンシャルプランナー、医療請求事務検定、診療報酬請求事務能力認定試験、医療秘書実務検定、ドクターズブランク			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
124人	1人	0.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、ミニテストの成績等）をクラス担当ミーティングで共有し、注意を要する学生に支援策（保護者連絡、3者面談、管理職による面談等）を都度実施している。また、クラス担当等を設け個々の学生に適した指導、助言、相談等を実施している。		

■文化・教養専門課程 スポーツ学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養		文化・教養 専門課程	スポーツ学科	○	—
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類	
	昼間	62 単位時間／単位		講義 36 単位時間 ／単位	演習 13 単位時間 ／単位
2年				実習 22 単位時間 ／単位	実験 単位時間 ／単位
				実技 単位時間 ／単位	
				71 単位時間／単位	
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	40人	0人	2人	1人	3人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）は学科会議を行い、過年度の学習成果を分析し、授業科目の設定・講義内容について検討を行い、各科目（各学科）の担当教員が作成を行っている。なお、検討にあたっては、専門分野に関する企業、団体等との連携により設置している教育課程編成委員会の提言を各授業科目の内容に反映させている。授業計画書（シラバス）の作成、記載項目は学校全体で定めたガイドラインに沿って行っている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学業の達成度を客観的に評価するための指標として GPA（Grade Point Average）を採用し、本校の成績評価に使用している。本校では GPA を基準に成績の分布状況の把握に努めているほか、学生個人の就職や大学編入学への推薦等の際にも客観的指標として GPA を活用している。この客観的な成績評価指標については HP で公開するほか、学生便覧にも記載して周知を図っている。</p> <p>◆学生便覧より抜粋◆</p> <p>3. 学業成績について</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。</p> <p>なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者等宛に通知する。</p> <p>(1) 学業成績の判定は、「秀・優・良・可・不可」の5種で判定し、「秀・優・良・可」を合格（認定）とし「不可」は不合格（不認定）とする。また、授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP（Grade-Point）を与える。</p> <p>(2) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、「秀・優・良・可」を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(3) 学校が必要と認めた場合に限り、追試験または再試験などを実施する場合がある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(4) 試験内容や判定基準は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>

卒業・進級の認定基準

本校は、学則に教育目的として「簿記会計・税務会計・医療事務並びにこれらビジネスに関する専門教育、社会体育指導者・健康管理指導者・トレーナー及び国家地方公務員行政職・警察官・消防官をはじめとする公務員養成に関する専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げて教育を行っている。

この目的を実現するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、その要件を満たした学生に卒業を認定致します。

1. カリキュラムポリシー

次に掲げるカリキュラムポリシーに基づき、社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 多様なメディアを活用した講義・演習・実習により、専門的な知識やスキルを身につけるための教育課程を編成する
- (2) 教育課程の編成においては、基礎力から応用・発展する力へ、段階的に成長できるように履修科目を配置する
- (3) 専門的な知識やスキルだけでなく、マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を育む

上記に基づき、ディプロマポリシーとして卒業時点で身につけている能力を以下のとおり定めHPに公開しています。

2. ディプロマポリシー

次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

- (1) 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
- (2) 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
- (3) マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

また、卒業要件については、学則に規定するとともに、学生便覧において学生に周知している。

◆学則より抜粋◆

(卒業の認定)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

- | | |
|------------|------|
| (2) スポーツ学科 | 62単位 |
|------------|------|

◆学生便覧より抜粋◆

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

- (1) 卒業を認められる者のうち、文部科学大臣が認める所定の学科を修了した者は、「専門士」の称号を付与する。
- (2) それぞれの課程・学科に定められた授業科目および単位数などで一定の基準を

<p>満たしていない者は、追試験などを受けなければ卒業できない。 (3) 卒業に関する要件は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) 個別相談・指導等で対応する他、学生の事情に応じ、家庭への電話、ポータルサイトでの連絡、保護者面談、保護者との連携等を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	19人 (95.0%)	1人 (5.0%)
<p>(主な就職、業界等) イトマンスイミングスクール、セントラルスポーツ、デサント、東祥、B-ST、森ビルホスピタリティコーポレーション、幼児活動研究会</p>			
<p>(就職指導内容) 全体指導によるレクチャー、校内でのセミナー・ガイダンスの実施 担当による求人紹介、個別就職指導、面接トレーニング</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) AFAA-IGFI、AFAA-RT、JATI 認定トレーニング指導者資格（JATI-ATI）</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43人	3人	7.0%
<p>(中途退学の主な理由) 病気療養、進路変更のため</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、ミニテストの成績等）をクラス担当ミーティングで共有し、注意を要する学生に支援策（保護者連絡、3者面談、管理職による面談等）を都度実施している。また、クラス担当等を設け個々の学生に適した指導、助言、相談等を実施している。</p>		

■文化・教養専門課程 公務員2年制学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養		文化・教養 専門課程	公務員2年制学科	○	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	62 単位時間／単位		37 単位時間 ／単位	46 単位時間 ／単位	5 単位時間 ／単位		2 単位時間 ／単位
			88 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人		110人	0人	4人	1人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）は学科会議を行い、過年度の学習成果を分析し、授業科目の設定・講義内容について検討を行い、各科目（各学科）の担当教員が作成を行っている。なお、検討にあたっては、専門分野に関する企業、団体等との連携により設置している教育課程編成委員会の提言を各授業科目の内容に反映させている。授業計画書（シラバス）の作成、記載項目は学校全体で定めたガイドラインに沿って行っている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学業の達成度を客観的に評価するための指標として GPA（Grade Point Average）を採用し、本校の成績評価に使用している。本校では GPA を基準に成績の分布状況の把握に努めているほか、学生個人の就職や大学編入学への推薦等の際にも客観的指標として GPA を活用している。この客観的な成績評価指標については HP で公開するほか、学生便覧にも記載して周知を図っている。</p> <p>◆学生便覧より抜粋◆</p> <p>3. 学業成績について</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。</p> <p>なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者等宛に通知する。</p> <p>(1) 学業成績の判定は、「秀・優・良・可・不可」の5種で判定し、「秀・優・良・可」を合格（認定）とし「不可」は不合格（不認定）とする。また、授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP（Grade-Point）を与える。</p> <p>(2) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、「秀・優・良・可」を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(3) 学校が必要と認めた場合に限り、追試験または再試験などを実施する場合がある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(4) 試験内容や判定基準は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>	

卒業・進級の認定基準

本校は、学則に教育目的として「簿記会計・税務会計・医療事務並びにこれらビジネスに関する専門教育、社会体育指導者・健康管理指導者・トレーナー及び国家地方公務員行政職・警察官・消防官をはじめとする公務員養成に関する専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げて教育を行っている。

この目的を実現するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、その要件を満たした学生に卒業を認定致します。

1. カリキュラムポリシー

次に掲げるカリキュラムポリシーに基づき、社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 多様なメディアを活用した講義・演習・実習により、専門的な知識やスキルを身につけるための教育課程を編成する
- (2) 教育課程の編成においては、基礎力から応用・発展する力へ、段階的に成長できるように履修科目を配置する
- (3) 専門的な知識やスキルだけでなく、マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を育む

上記に基づき、ディプロマポリシーとして卒業時点で身につけている能力を以下のとおり定めHPに公開しています。

2. ディプロマポリシー

次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

- (1) 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
- (2) 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
- (3) マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

また、卒業要件については、学則に規定するとともに、学生便覧において学生に周知している。

◆学則より抜粋◆

(卒業の認定)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

- (3) 公務員2年制学科 62単位

◆学生便覧より抜粋◆

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

- (1) 卒業を認められる者のうち、文部科学大臣が認める所定の学科を修了した者は、「専門士」の称号を付与する。
- (2) それぞれの課程・学科に定められた授業科目および単位数などで一定の基準を

<p>満たしていない者は、追試験などを受けなければ卒業できない。 (3) 卒業に関する要件は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) 個別相談・指導等で対応する他、学生の事情に応じ、家庭への電話、ポータルサイトでの連絡、保護者面談、保護者との連携等を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	1人 (2.5%)	39人 (97.5%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 横浜税関、防衛省、外務省、岩手県庁、青森県庁、千葉県庁、滝沢市役所、遠野市役所、九戸村役場、岩手県警、警視庁、遠野市消防、北上地区消防			
(就職指導内容) 全体指導による自己分析、業界研究、面接トレーニング等の実施 公官庁の人事担当者による学内セミナー、卒業生による学内セミナーの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 一般教養力検定、漢字検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	1人	2.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、ミニテストの成績等）をクラス担当ミーティングで共有し、注意を要する学生に支援策（保護者連絡、3者面談、管理職による面談等）を都度実施している。また、クラス担当等を設け個々の学生に適した指導、助言、相談等を実施している。		

■文化・教養専門課程 公務員1年制学科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	公務員1年制学科	—	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 31 単位時間／単位		開設している授業の種類		
	昼間			講義 18 単位時間 ／単位	演習 23 単位時間 ／単位	実習 5 単位時間 ／単位
1年				46 単位時間／単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30人		8人	0人	4人	1人	5人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）は学科会議を行い、過年度の学習成果を分析し、授業科目の設定・講義内容について検討を行い、各科目（各学科）の担当教員が作成を行っている。なお、検討にあたっては、専門分野に関する企業、団体等との連携により設置している教育課程編成委員会の提言を各 授業科目の内容に反映させている。授業計画書（シラバス）の作成、記載項目は学校全体で定めたガイドラインに沿って行っている。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>学業の達成度を客観的に評価するための指標として GPA（Grade Point Average）を採用し、本校の成績評価に使用している。本校では GPA を基準に成績の分布状況の把握に努めているほか、学生個人の就職や大学編入学への推薦等の際にも客観的指標として GPA を活用している。この客観的な成績評価指標については HP で公開するほか、学生便覧にも記載して周知を図っている。</p> <p>◆学生便覧より抜粋◆</p> <p>3. 学業成績について</p> <p>学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって判定する。ただし、授業科目によっては、その他の方法で判定する場合がある。</p> <p>なお、学業成績は、学期または必要に応じて、授業の出席状況とともに保護者等宛に通知する。</p> <p>(1) 学業成績の判定は、「秀・優・良・可・不可」の5種で判定し、「秀・優・良・可」を合格（認定）とし「不可」は不合格（不認定）とする。また、授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP（Grade-Point）を与える。</p> <p>(2) 授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、「秀・優・良・可」を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(3) 学校が必要と認めた場合に限り、追試験または再試験などを実施する場合がある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>(4) 試験内容や判定基準は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>						

卒業・進級の認定基準

本校は、学則に教育目的として「簿記会計・税務会計・医療事務並びにこれらビジネスに関する専門教育、社会体育指導者・健康管理指導者・トレーナー及び国家地方公務員行政職・警察官・消防官をはじめとする公務員養成に関する専門教育を施し、人格の陶冶を行い、もって社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。」を掲げて教育を行っている。

この目的を実現するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、その要件を満たした学生に卒業を認定致します。

1. カリキュラムポリシー

次に掲げるカリキュラムポリシーに基づき、社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 多様なメディアを活用した講義・演習・実習により、専門的な知識やスキルを身につけるための教育課程を編成する
- (2) 教育課程の編成においては、基礎力から応用・発展する力へ、段階的に成長できるように履修科目を配置する
- (3) 専門的な知識やスキルだけでなく、マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を育む

上記に基づき、ディプロマポリシーとして卒業時点で身につけている能力を以下のとおり定めHPに公開しています。

2. ディプロマポリシー

次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。

- (1) 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる
- (2) 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる
- (3) マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる

また、卒業要件については、学則に規定するとともに、学生便覧において学生に周知している。

◆学則より抜粋◆

(卒業の認定)

第22条 卒業の認定は、第5条に規定する修業年限以上在学して、下記に定める単位数を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。

- (4) 公務員1年制学科 31単位

◆学生便覧より抜粋◆

2. 卒業について

各課程・学科の修業年限に在籍し、所定の授業科目の履修を積み重ね、各課程・学科の卒業に必要な授業科目および単位数を修得し、卒業審査に合格した者は卒業できる。その場合には卒業証書を授与する。

- (1) 卒業を認められる者のうち、文部科学大臣が認める所定の学科を修了した者は、「専門士」の称号を付与する。
- (2) それぞれの課程・学科に定められた授業科目および単位数などで一定の基準を

<p>満たしていない者は、追試験などを受けなければ卒業できない。 (3) 卒業に関する要件は、各課程・学科によって異なるため、入学後のオリエンテーションや進級ガイダンスなどで確認すること。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) 個別相談・指導等で対応する他、学生の事情に応じ、家庭への電話、ポータルサイトでの連絡、保護者面談、保護者との連携等を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	4人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 海上保安庁、自衛官、警視庁、岩手県庁			
(就職指導内容) 全体指導による自己分析、業界研究、面接トレーニング等の実施 企業の人事担当者による学内セミナー、卒業生による学内セミナーの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 漢字検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の様子（出席状況、授業態度、交友関係、ミニテストの成績等）をクラス担当ミーティングで共有し、注意を要する学生に支援策（保護者連絡、3者面談、管理職による面談等）を都度実施している。また、クラス担当等を設け個々の学生に適した指導、助言、相談等を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合ビジネス 学科2年生	120,000円	660,000円	340,000円	その他： 教材費、維持費、実習費
スポーツ学科	120,000円	660,000円	400,000円	その他： 教材費、維持費、実習費
公務員 2年制学科	120,000円	660,000円	340,000円	その他： 教材費、維持費、実習費
公務員 1年制学科	120,000円	660,000円	400,000円	その他： 教材費、維持費、実習費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) 当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。 学校関係者 (参画委員) (1) 専攻分野に関する企業等 (2) 卒業生、地域住民等 主な評価項目 (1) 教育理念・目的・育成人材像 (6) 教育環境 (2) 学校運営 (7) 学生の募集と受入れ (3) 教育活動 (8) 財務 (4) 学修成果 (9) 法令等の遵守 (5) 学生支援 (10) 社会貢献・地域貢献		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
盛岡商工会議所 部長	2025年4月1日～ 2027年3月31日	業界団体
岩手県体操協会 副会長	2025年4月1日～ 2027年3月31日	業界団体
昆 税理士法人 代表社員	2025年4月1日～ 2027年3月31日	企業

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター 病院事務部次長	2025年4月1日～ 2027年3月31日	企業
ワールドウィング盛岡 MHRヘルスケア株式会社 チーフ	2025年4月1日～ 2027年3月31日	企業
中川町内会 会長	2025年4月1日～ 2027年3月31日	近隣住民
大沢英夫税理士事務所 職員	2025年4月1日～ 2027年3月31日	卒業生
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/
